

第九回 忠順大賞

(平成二十六年)

きょうしつうんどうじょう

まだまだつづけたのしいじかん

※明るい情感が生きている。

うれしさあふれる一首。

会長賞 銅賞

堤小六年 石川 溪斗

田んぼ道毎日せおったランドセル

ぼくの背がのび小さくみえる

※うれしい心情がにじむ一首。下の句が光っている。

て

ぼくはくやくしく空を見上げた

※思いがすなおに力強くうたわれている。いいおとうさんですね。

堤小三年 熊谷 圭吾

持久走でぜんりよくしつそう

もう死にそう

ははのおうえんで走りきったよ

※「おかあさんありがとう」のうた。よろこびの声なきこえてきて快い。

入賞作品

・応募総数 一三七六首

・荒川心星先生 選評

小学生の部

豊田市長賞

堤小五年 中野 吉都

一つぶの米の重みが手に伝う

稲刈りをして生まれた感謝

※稲刈りの思いがこもるゆたかな一首。上の句の表現がとてもいいので、作者の表情まで浮かんでくる。

あしたもきつと秋晴れだろな

※豊かな詩情がこもり情景が浮かんでくる。心に残る一首。

会長賞 銀賞

堤小四年 増田 柚花

しんしんとふる雪見なれた畑さえ

キラキラひかるまほうの世界

※一首の姿が端正に仕上がっている。結句がすばらしい言い方ですね。

中日新聞社賞

堤小四年 亀田 隼杜

つつみの自然草木に花に雨地面

おいしい空気をいただきますね

※つつみの自然をたたえて快い。下の句がすばらしい。

優秀賞(四名)

駒場小四年 清水 愛翔

とうさんにドッチボールであてられ

堤小二年 福田 実桜

さむいよる家ぞくみんなでなべかこ

ともだちとすごした

豊田市教育委員会賞  
駒場小六年 尾崎 佑弥

む

ゆげのむこうにみんなのえがお

豊田市長賞

※明るくあたたかい家ぞくが浮かんでくる。すてきなうた。

高岡町 早川 寛子

前中のマラソン大会最後尾の

堤小一年 中野 沙嬉

ランナー称える生徒等美し

うでまくりりょうりせんたく

※必死になって走る子と応援のすばらしい姿が重なって臉に浮かぶ。

ふゆのあさ

作者の穏やかな心情があたたかい。

まるでわたしもちいさなかあさん

豊田市教育委員会賞

※女の子らしいうた。

青木町 奥村 良枝

「ちいさなかあさん」がいいですね。

難病の友の手硬く冷たくて

ひたすらさすれば残照の見ゆ

※励ます言葉はむつかしい。下句に真情が滲み出て心打たれる。

会長賞 金賞

前林中三年 前田 菜乃

あのときのきんもくせいこのきのした

で

ちかったことばずっとともだち

中日新聞社賞

※作者の言葉がこもっている。下句の表現がぐつと胸にひびいてくる。

前林中二年 伊藤 茉央

ありがとうそのひとことのでつながら

輪

会長賞 銀賞

前林中二年 神谷 咲来

あせなみだたくさんながした

※素直なうたで心にひびく。「ありがとう」のいえるやさしい子。

ことしのなつ

こうかいわすれずはしりつづける

※記憶のなかの夏の日をあざやかにうたに留めていて心地よい。

優秀賞（四名）

前林中二年 近藤 真帆

きこえてるミシンのおととわらいごえ

え

思い出を心にいっばいつめこんで

いつもとおなじそんなまいにち

私は今年巣立ちゆきます

※一つ一つのことばがひびき合って

※上の句の表現がとてもいい。快活でさわやかな作者が浮かんでくる。

巣立ちゆく姿が美しい。

前林中三年 後藤 達也

顔の色言語は違う外国で

出会えた僕のベストフレンド

※思い出のうた。結句の思いは深い。

前林中三年 前田 剛志

友達ときぎな深めた東京で

楽しかったね修学旅行

※修学旅行の楽しい思い出が共感を呼ぶ。

前林中二年 小口 隼矢

先生の心を描く白チョーク

チャイムと共に変わる黒板

※中学校の授業風景がユーモラスなうたになり心くすぐる。

\* \* \* \* \*

第九回「忠順大賞」に総数一三七

六首の作品を応募頂きました。

二月四日事務局での第一次審査を経て、俳人協会会員の荒川心星先生による最終審査により二十名の方が入選されました。おめでとうございます。また先生には講評も添えていただきました。

審査をさせていただくということ、責任ある身の引き締まる緊張感と同時にとっても豊かな時間を頂けることです。キラッと光る言葉で、自分の気持ちを素直に詠んだ歌に共感したり、驚いたり、感激したりと今年も多くの作品に出会うことができました。

応募して下さった大勢の方々、授業、行事等で大変お忙しい中、毎年指導、協力して頂いています小、中学校の先生方に感謝いたします。

事務局 川村